

連載

4

# 在宅医療奮闘記

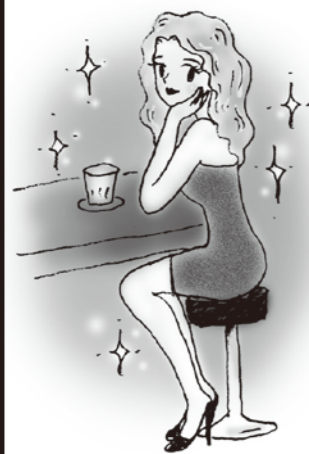
平成7年より  
在宅を開始した

私の思い出

(医)東西会 千舟町クリニック院長

橋本 満義 (62歳・内科)

## 古い知人との再会 (脳梗塞後遺症患者さん)



平成9年頃、ある夏の日、知り合いのヘルパーさんから在宅医療の依頼がありました。

聞くところによると、部屋の中が不潔な状態で、高血圧症、脱水症になっており、いずれ生命の危険に陥るだろうとの見解。入院治療への拒否傾向が強いので往診してほしいとの事でした。

まず、彼(患者さん)との人間関係をつくり、部屋の掃除と体を清潔にしたうえで点滴・静脈注射などの医療行為を行いました。すると、やがて彼は元気になったのでした。

しばらくして、コミュニケーションをとるのが十分に可能となった時、彼が突然私に言いました。

「初めて先生が往診に来られた時から、私はあなたが橋本先生だとわかっていましたよ。」

私は彼の顔をまじまじと見て、やっと気づきました。…実は彼は女性用の下着を身に着けていたのです。当時よりさらに10年以上前の事です。大学の教授に社会見学だとニューハーフの店に連れて行かれた事が瞬時に脳裏によみがえりました。

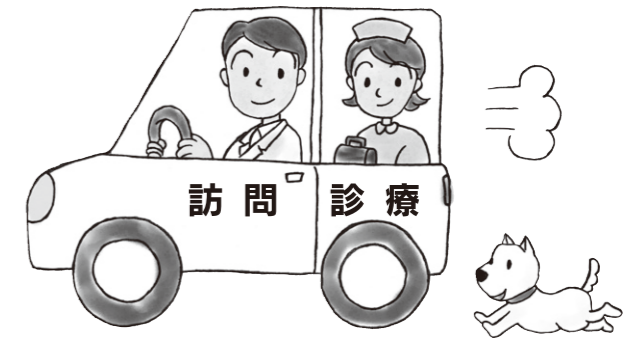
「今はっきりと思い出しましたよ。当時あなたはお店のナンバーワンで綺麗な足が自慢でしたね。」  
そう私が言うと、言葉では言い表せないほどの幸せそうな表情を見せてくれたのです。その顔はまるで女神のようで、今でもはっきりと覚えています。

その後、彼は夜間せん妄、寝たきり状態で幻覚が激しくなったため専門病院へ措置入院となりました。そして、いつの日か天国へ旅立ったと風の便りに知りました。

今は、クオリティ・オブ・ライフ(人生の質)、ノーマライゼーションを大切にす時代です。決して医療の専門性を押しつけて生き方を決めつけたりしてはいけません。(特例として措置入院「強制入院のこと」はありますが…)

個々の人生は千差万別十人十色です。それを介護、看護、医療の専門職がサポートしますが、高度な医療を押しつけるよりむしろ『生き方』の満足度が重要視される時代なのです。

**「お医者さんが来てくれる」**  
質の高い在宅医療・看護・介護  
を『千舟町クリニック』は目指しています。



機能強化型・有床 在宅療養支援診療所

**(医)東西会 千舟町クリニック**

松山市千舟町6-4-9 Tel:089-933-3788

<http://www.touzaikai.jp/>